



株式会社セック

Systems **E**ngineering **C**onsultants Co.,LTD.

<https://www.sec.co.jp/>

銘柄コード：3741

2020年3月期 第1四半期 決算補足説明資料

2019年8月8日

- 第1四半期決算概要
- 通期業績見通し

2020年3月期第1四半期 決算概要

2020年3月期第1四半期の事業環境

情報サービス業売上高前年同月比推移（経済産業省：特定サービス産業動態統計）

単位：%



2018年9月までは減少と増加を繰り返していたが、2018年10月からは増加で推移しており、「IT需要は全体的には概ね堅調」と推察される。

2020年3月期第1四半期総括

売上高は過去最高、利益面は上場来2位、前年同期比で増収減益

売上高	: <u>1, 337</u> 百万円	前期比	3.5%増		
営業利益	: <u>144</u> 百万円	前期比	7.1%減	利益率	10.8%
経常利益	: <u>162</u> 百万円	前期比	4.9%減	利益率	12.1%
当期純利益	: <u>111</u> 百万円	前期比	5.0%減		

受注高、受注残高ともに過去最高

受注高	: <u>1, 523</u> 百万円	前期比	4.6%増		
受注残高	: <u>2, 227</u> 百万円	前期比	25.5%増		

先端技術を窮め、オープン・イノベーションで事業成長を目指す

- 需要構造が変化し、一部の案件で採算が低下したことにより減益
(モバイルネットワークBFから宇宙先端システムBFへ、売上高比率トップのBFが交代)
- 移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少
- モバイル決済関連の利用拡大に伴う開発案件が増加
- 宇宙天文分野の開発案件が増加

第1四半期損益計算書

	2019年3月期第1四半期 (百万円)	2020年3月期第1四半期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	1,292	1,337	103.5	—	—
売上原価	930	973	104.6	—	—
売上総利益	362	364	100.7	—	—
販売管理費	207	220	106.5	—	—
営業利益 (営業利益率)	155 (12.0%)	144 (10.8%)	92.9	—	—
経常利益 (経常利益率)	170 (13.2%)	162 (12.1%)	95.1	—	—
当期純利益	117	111	95.0	—	—

売上原価 社員数の増加とベースアップにより人件費が増加、外注費も増加
(外注費 3.9億円、前年同期比5.1%増、売上高外注比率29.7%、前期29.2%)

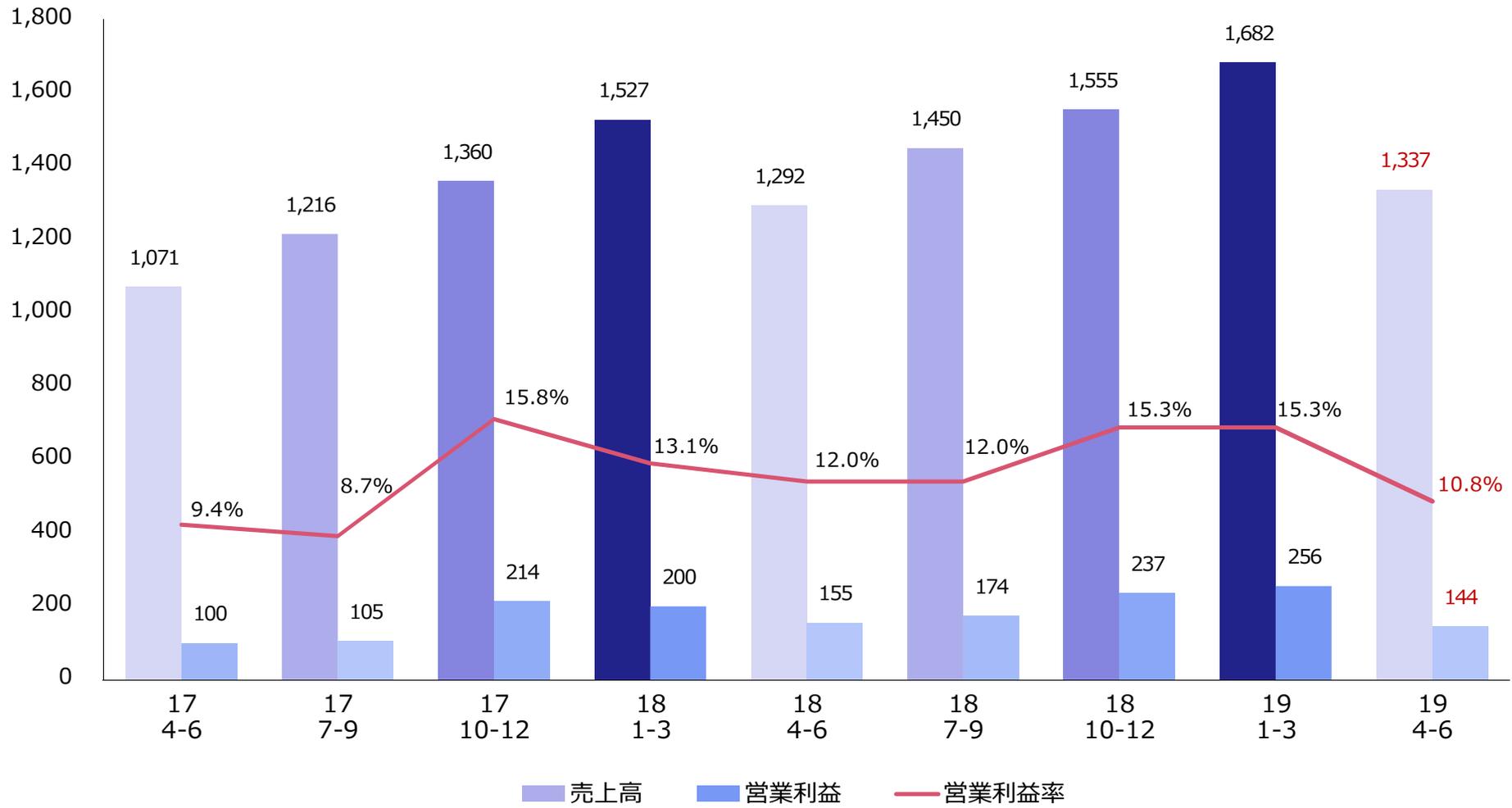
販売管理費 新入社員の増加などにより労務費が増加
(研究開発費：21百万円、前年同期比0.8%減)

営業外損益 研究開発の補助金収入は4百万円（前年同期は6百万円）、受取出向料が増加

四半期業績推移 (P L)

9 四半期連続の増収だったが減益となった (対前年同四半期比較)

(単位：百万円)

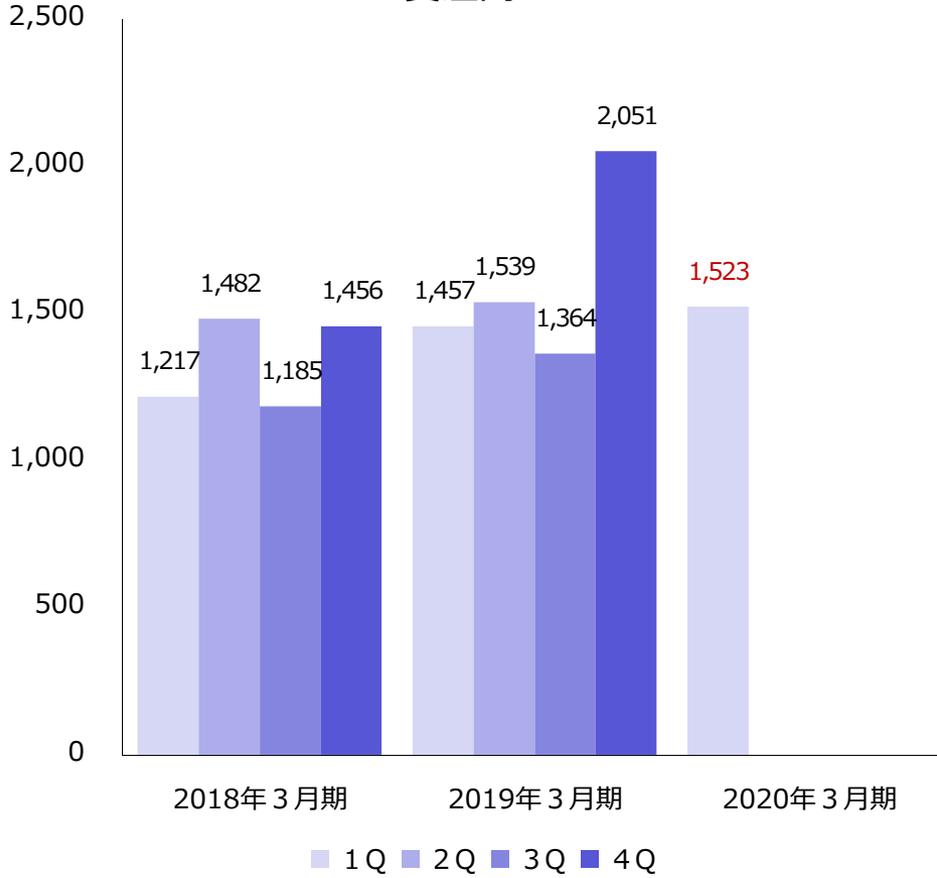


四半期業績推移（受注状況）

受注高、受注残高ともに過去最高（対前年同四半期比較）

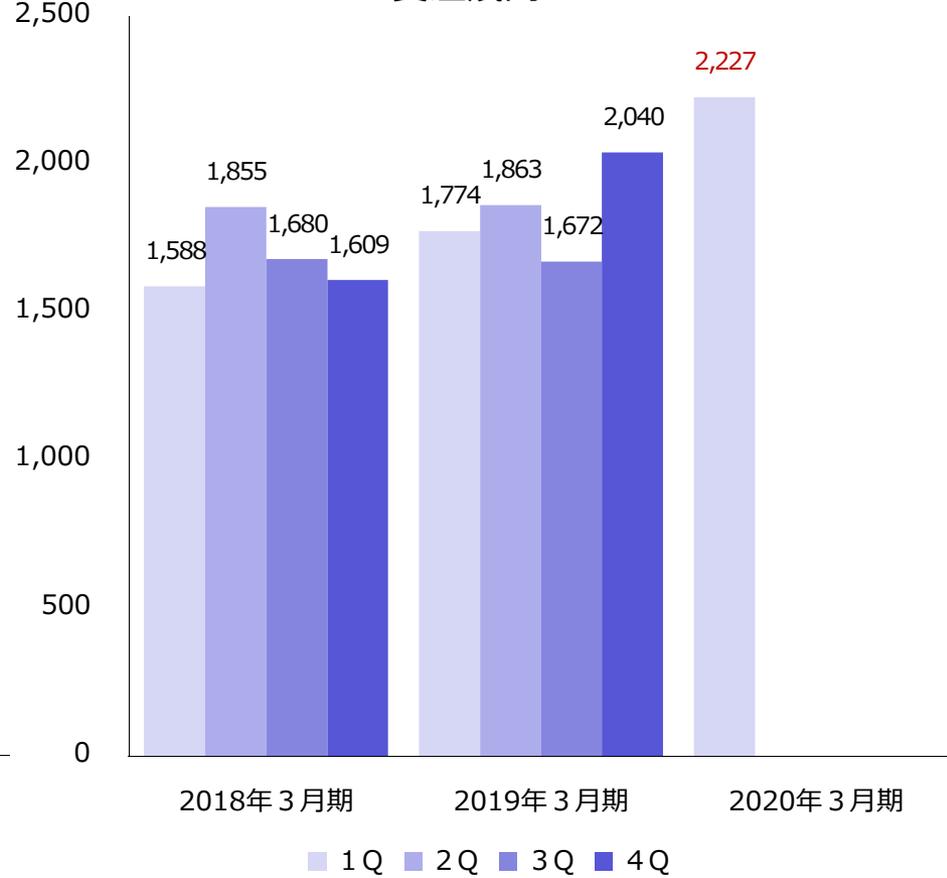
(単位：百万円)

受注高



(単位：百万円)

受注残高



第1四半期BF別の状況

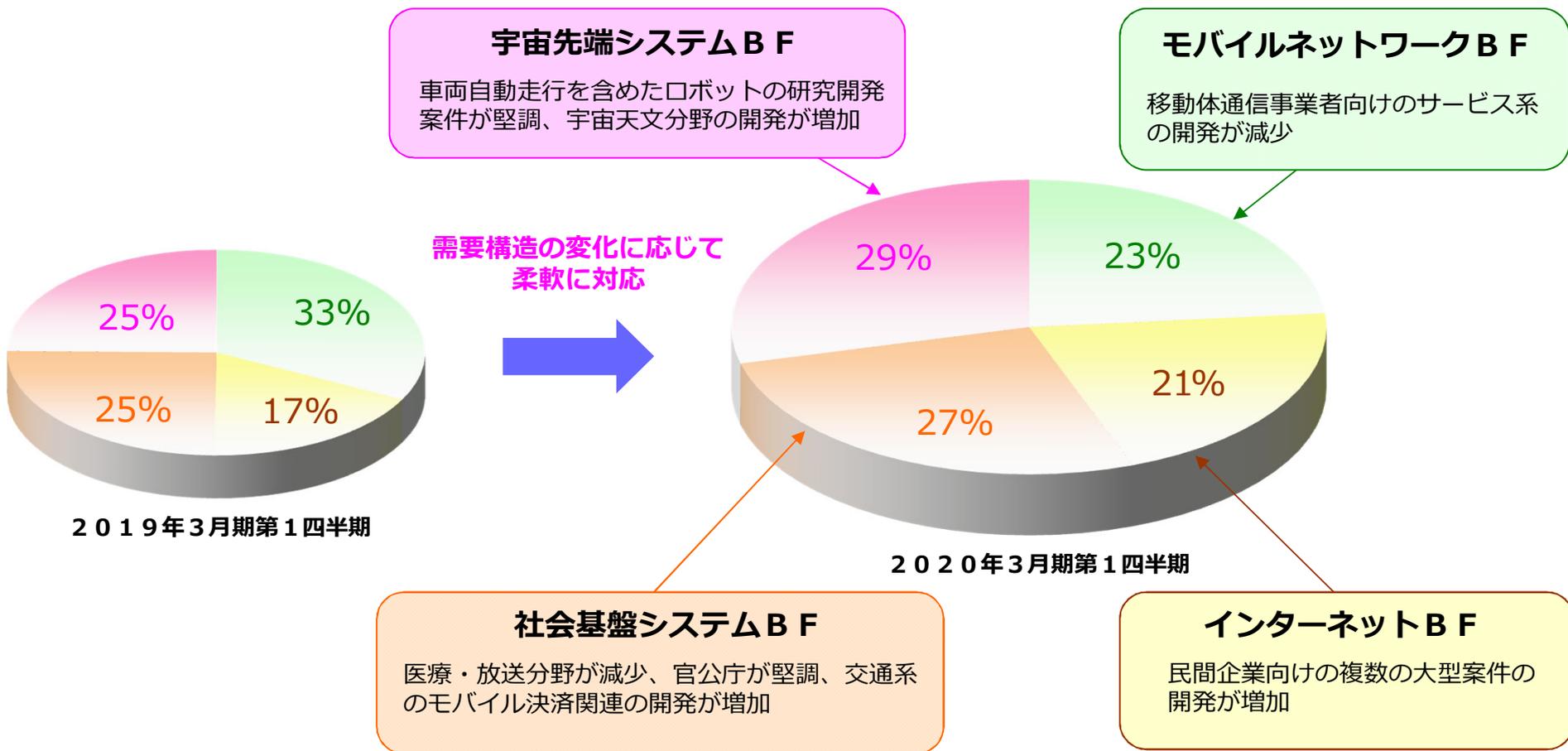
宇宙先端システムが大幅に増加し売上高トップのBFへ

ビジネスフィールド	2019年3月期第1四半期		2020年3月期第1四半期		
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	420	32.5	314	23.5	74.7
インターネット	228	17.7	278	20.8	122.0
社会基盤システム	322	25.0	356	26.7	110.6
宇宙先端システム	320	24.8	387	29.0	121.0
合計	1,292	100.0	1,337	100.0	103.5

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少
- インターネットBFは、民間企業向けの複数の大型案件の開発が増加
- 社会基盤システムBFは、医療・放送分野が減少、官公庁が堅調、交通系のモバイル決済関連の開発が増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行を含めたロボットの研究開発案件が堅調、宇宙天文分野の開発が増加

第1四半期BF別構成比

リアルタイム技術が得意とする4つの分野



第1四半期末のBF別受注状況

宇宙先端システム、インターネットが大幅に増加

ビジネスフィールド	2019年3月期第1四半期		2020年3月期第1四半期			
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	前期比 (%)	受注残高 (百万円)	前期比 (%)
モバイルネットワーク	438	391	252	57.6	262	67.1
インターネット	258	262	325	126.0	320	121.8
社会基盤システム	430	791	394	91.8	1,127	142.4
宇宙先端システム	330	328	550	166.6	516	157.0
合計	1,457	1,774	1,523	104.6	2,227	125.5

(受注残高のうち、今期の売上高に貢献するのは1,848百万円、前期(1,622百万円)と比較し13.9%の増加)

- モバイルネットワークBFは、移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少し、受注高、受注残高ともに減少
- インターネットBFは、民間企業向けの複数の大型案件の開発の増加により、受注高、受注残高ともに大幅に増加
- 社会基盤システムBFは、第4四半期の反動で受注高が減少したものの、受注残高は大幅に増加
- 宇宙先端システムBFは、車両自動走行やロボットに宇宙天文分野が増加、受注高、受注残高ともに大幅に増加

2020年3月期 通期業績見通し

2020年3月期業績見通し（変更なし）

成長への投資を優先、売上高・利益は微増の計画

（単位:百万円）

	2019年3月期 実績	2020年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	5,981	6,100	102.0
売上原価	4,310	4,360	101.1
売上総利益	1,670	1,740	104.2
販売管理費	847	880	103.9
営業利益 (営業利益率)	823 (13.8%)	860 (14.1%)	104.4
経常利益 (経常利益率)	889 (14.9%)	920 (15.1%)	103.4
当期純利益	613	640	104.3

売上原価 人件費が増加するものの外注費を抑制する計画で、ほぼ前期並みを見込む

販売管理費 研究開発への投資などにより増加を見込む

営業外損益 研究開発の補助金収入と受取出向料を見込む

2020年3月期B F別業績見通し

宇宙先端システムB Fが通期でも増加の見込み

ビジネス フィールド	期初の想定	予想	第1四半期状況判断	予想
モバイル ネットワーク	移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少傾向のため、若干の減少	➡	移動体通信事業者向けのサービス系の開発が減少し、ほぼ予想どおりの展開	➡
インターネット	非接触IC搭載ソフトウェアの開発やモバイル決済端末の開発が堅調で、前期並み	➡	民間企業向けの大型案件の開発が増加し、予想を若干上回る展開	➡
社会基盤 システム	官公庁系の開発や防衛分野の商談が引続き堅調で、前期並み	➡	官公庁系の開発が堅調で、交通系のモバイル決済関連の開発などが増加し、予想を若干上回る展開	➡
宇宙先端 システム	車両自動走行の研究開発案件が引続き好調で、それにロボットの研究開発案件も増加傾向にあり、全体で増加	➡	車両自動走行やロボットの研究開発案件は前期並み、宇宙天文分野の開発が加わり、予想どおりの展開	➡

ロボットビジネスの状況

実績 (2020年3月期第1四半期 売上高約249百万円/前期並
← 前年同期約249百万円 ← 前々年同期約135百万円)

車両自動走行は微増、サービスロボットの研究開発案件は微減、トータルで堅調(前期並)

- 大手自動車メーカーからの車両自動走行研究ソフトウェアの開発案件が微増
- 大手自動車、電機、機械、建築メーカーからの実用化に向けての研究開発案件が微減
 - ⇒ 技術的には、システムエンジニアリング、ROS・RTM(ミドルウェア)などの標準化技術、自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)などを使った受託開発が主流
 - ⇒ 分野的には、無人搬送車、船舶、ドローン、警備、業務用掃除機など広範囲
 - ⇒ 顧客層は拡大傾向

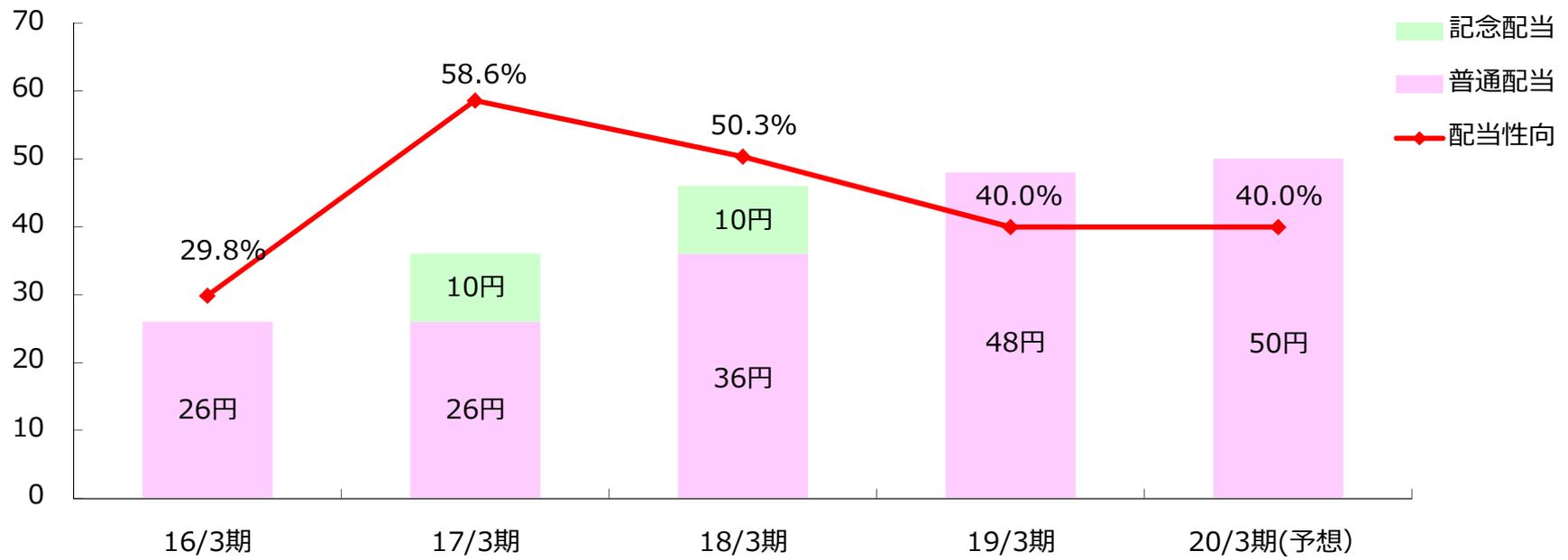
今後の方針 実用化に向けて、全方位でチャンスを見逃さない

3つの強みで展開

- ロボット標準化技術(RTミドルウェア、ROS)ビジネスの推進
 - ⇒ 試作機の開発、製品化・実用化(ラストワンマイル)、教育、コンサルなど
- 製品適用ビジネスの推進
 - ⇒ 自律移動ソフト(Rtino)、コンピュータビジョンソフト(Rtrilo)、機能安全ソフト(RTMsafety)など製品+α(複数台制御、開発、教育、コンサルなど)のビジネス
- ロボット高付加価値化ビジネスの推進
 - ⇒ ロボット+α(エンジニアリング、AI、MR、画像認識、RaaSなど)のビジネス

配当の方針

- 配当性向は当面40%を目安とする。
- 2020年3月期は1株当たり50円の配当予想とする。



※2016年10月1日付で、1：2の割合で株式分割を実施していますが、2016年3月期の期首に株式分割を実施したものと仮定して配当金を表示しています。

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものではなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。